

2 0 2 7 年 度

表 現 創 造 入 試 の 概 要

ア ー ト ・ エ ッ セ イ ・ デ ジ タ ル ・ ダ ン ス

学 校 法 人 井 之 頭 学 園
吉 祥 寺 湧 水 中 学 校 ・ 高 等 学 校

感じたことを、自分の形にする。

絵の上手さだけを見る入試ではありません。

何を見て、何に心が動き、なぜその色・形・素材・構図を選んだのか。

作品と制作日記、当日の対話を通して、その子の感性、問い、選択の理由を見ていきます。

なぜアートか

AIで整った画像がすぐにつくられる時代です。だからこそ本校は、技術の高さよりも、その子が何を見て、何に心が動き、何に違和感を持ったかを見たいと考えています。

なぜその色を選んだのか。なぜその形にしたのか。自分の感覚を、どう他者に届けようとしたのか。そこに、その子らしい問いや感性が表れます。

入試の流れ

2026年9月	テーマ発表・制作日記フォーマット公開
2026年9月～2027年1月	作品制作（形式自由）・制作日記の作成
2027年2月（試験当日）	作品をもとに対話 15～20分

制作にあたって家族との相談や、AIの活用も認めます。

ただし、何を相談し、何を取り入れ、最後にどう判断したかを、自分の言葉で説明できることが重要です。

見たい3つの力

感じる力 —— 何を見て、何に心が動いたか

表す力 —— 感じたことを、自分なりに外に出す

届ける力 —— 誰に、何を、どう届けようとしたか

技術は、その子がアートに向き合ってきた証として受け取ります。

ただし、技術だけで合否を決める入試にはしません。

テーマについて

2027年度のテーマ（試験課題）は、2026年9月に発表します。アート入試のテーマの考え方と例は、P.2「アート入試のテーマ例」をご覧ください。

よくある質問

Q. 絵が苦手な子でも受験できますか？

A. はい。表現の形式は自由です。立体・写真・映像・コラージュ・デジタルアートなど、自分が伝えやすい方法で表現してください。

Q. 制作日記はどのくらい書けばよいですか？

A. 分量で評価するものではありません。考えたこと、試したこと、途中で変えたことなど、その子の制作の過程が見えることを大切にします。フォーマットは、9月のテーマ発表時にお知らせします。

Q. 当日の対話では何を聞かれますか？

A. 志望理由を暗記して話す場ではありません。作品について、工夫したこと、何を伝えようとしたのかなどを対話します。

アート入試のテーマ例

正解を当ててるのではなく、自分の見方を表す。

アート入試では、誰もが知っている言葉をテーマにします。ただし、その受け止め方は一人ひとり違います。本校が見たいのは、一つの正解に近づくことだけではありません。その言葉をどう受け止め、何を選び、どのように表そうとしたかです。

2027年度のテーマは、2026年9月に発表します。以下はテーマの例です。

■ テーマ例

ー 境目

「境目」って、なんでしょう。

昼と夜の境目。

子どもと大人の境目。

自分と誰かの境目。

あなたが見つけた「境目」を、あなたの方法で表してください。

ー まざる

「まざる」って、なんでしょう。

色がまざる。

音がまざる。

人がまざる。

気持ちがまざる。

あなたにとっての「まざる」を、あなたの方法で表してください。

ー 見えないもの

目には見えないけれど、確かにあるもの。

音、気配、記憶。

安心、不安、人とのつながり。

あなたが感じる「見えないもの」を、あなたの方法で表してください。

ー のこる

「のこる」って、なんでしょう。

すぐに消えてしまうもの。

時間がたっても残るもの。

形はなくなっても、心に残っているもの。

あなたにとっての「のこる」を、あなたの方法で表してください。

感じたことを、自分の言葉にする。

うまく書くより、自分の言葉で考える。何に心が動き、何にひっかかったのか。

まだ言葉になりきれないものを、自分の言葉にしようとしているか。エッセイと当日の対話を通して、その子の言葉・考え方を見ていきます。

なぜエッセイか

AIを使えば、整った文章はすぐ書ける時代です。だからこそ本校は、文章の完成度だけを見たいとは考えていません。大切なのは、テーマに対して何を感じたのか。すぐに答えが出ないことに、どう向き合ったのか。誰かの言葉ではなく、自分の言葉にしようとした跡があるか。

エッセイは、自分の中にある、まだ言葉になりきれないものに気づくための入口です。吉祥寺湧水での6年間は、その輪郭を少しずつ見つけ、自分の言葉にしていく時間です。受け取りたいのは、整った文章ではありません。テーマに向き合い、自分の言葉を探そうとする、その軌跡です。

入試の流れ

2026年9月	テーマ発表・字数の目安公開
2026年9月～2027年1月	エッセイの執筆
2027年2月（試験当日）	エッセイをもとに対話 15～20分

執筆にあたって家族との相談や、AIの活用も認めます。

ただし、何を相談し、何を取り入れ、最後にどう判断したかを、自分の言葉で説明できることが重要です。

見たい3つの力

感じる力 —— テーマに対し、何に心が動き、何にひっかかったか

言葉にする力 —— 感じたことを、借り物ではない、自分の言葉で表そうとしたか

深める力 —— 当日の対話の中で、考え直したり、言い換えたりしながら、自分の考えを深めようとしているか

文章の上手さだけで合否を決める入試ではありません。ただし、テーマに向き合ってきた時間は、しっかり受け取ります。

テーマについて

2027年度のテーマは、2026年9月に発表します。エッセイ入試のテーマの考え方は、P.4「エッセイ入試のテーマについて」をご覧ください。

よくある質問

Q. 作文が苦手な子でも受験できますか？

A. はい。文章の上手さで合否を決める入試ではありません。等身大の言葉で、自分が感じたこと、考えたことを伝えることを大切にします。

Q. 英語でも受験できますか？

A. はい。エッセイ・当日の対話共に、英語での受験が可能です。

Q. 帰国生入試との違いは？

A. 表現創造入試のエッセイは、出願資格を設けない表現創造入試の一方式です。帰国生入試は、海外在住・在籍経験を持つ受験生を対象とする別の入試制度です。

Q. 字数や提出方法はいつわかりますか？

A. エッセイは当日に直接提出いただきます。字数は、2026年9月のテーマ発表時にお知らせします。

Q. 当日の対話では何を聞かれますか？

A. 志望理由を暗記して話す場ではありません。エッセイについて、何を伝えようとしたのか、なぜそう考えたのかなどを対話します。

エッセイ入試のテーマについて

正解を当ててるのではなく、自分の言葉で考える。

エッセイ入試のテーマは、小学生が、自分の中にあるまだ言葉になりきらないものから、少しずつ言葉にしていけるように設計します。立派な経験や、はっきりした答えがなくてもかまいません。本人の中にある小さなひっかかりや気づきから始められるテーマを用意します。

■ エッセイ入試のテーマ、4つの方向性

1. 小学生が、自分の言葉で考えられるテーマであること
2. 正解を当ててるのではなく、その子の感じ方や考え方が表れること
3. 文章だけでなく、当日の対話まで含めて受け取れること
4. 立派な経験ではなく、本人の中にある小さなひっかかりや気づきから始められること

■ 受験生へのヒント

書く前に、まず少し立ち止まってみてください。何に心が動いたのか。何が気になっているのか。まだうまく言葉にできないことの中に、あなた自身の考えの入口があるかもしれません。

家族と話す。ノートに思いついたことを書き出す。必要に応じて、AIを使って考えを整理する。方法は一つではありません。大事なことは、自分で「これは自分の考えだ」と言える言葉を持っていることです。

感じたことを、誰かに届ける形にする。

プログラミングの上手さだけを見る入試ではありません。デジタルは、特別な子だけのものではありません。

だからこそ本校は、AI やツールを使いながら、誰にどう届けたいのかを想像し、自分なりに形にしようとした、その跡を見ていきます。作品と制作日記、当日の対話を通して、その子の判断、試行錯誤を受け取ります。

なぜデジタルか

AI を使えば、文章も画像も、コードも、これまでより簡単にしてくれる時代です。だからこそ本校は、デジタル入試で「コードを正確に書けるか」だけを見たいとは考えていません。大切なのは、AI に何を問いかけたのか。返ってきた答えのうち、何を選び、何を選ばなかったのか。そして、その作品を誰に、どのように届けようとしたのか。

受け取りたいのは、完成度の高い作品だけではありません。誰かのことを考え、AI やツールを使いながら、自分なりに形にしようとした、その跡です。

入試の流れ

2026 年 9 月	テーマ発表・制作日記フォーマット公開
2026 年 9 月～2027 年 1 月	作品制作（形式自由）・制作日記の作成
2027 年 2 月（試験当日）	作品デモンストレーションと対話 15～20 分

制作にあたって家族との相談や、AI の活用も認めます。

ただし、何を相談し、何を取り入れ、最後にどう判断したかを、自分の言葉で説明できることが重要です。

見たい 3 つの力

感じる力 —— 誰かの気持ちや願いを受け取り、自分なりに気づこうとしたか

つくる力 —— AI やツールを使いながら、試し、直し、自分なりに形にしようとしたか

届ける力 —— 使う人や届く先を想像し、必要に応じて作品を見直そうとしたか

完成度は、その子がデジタルツールに向き合ってきた証として受け取ります。

ただし、完成度だけで合否を決める入試にはしません。

テーマについて

2027 年度のテーマは、2026 年 9 月に発表します。デジタル入試のテーマ例と考え方は、P.6 「デジタル入試のテーマ例」をご覧ください。

よくある質問

Q. プログラミングが得意でなくても受験できますか？

A. はい。プログラミングの上手さだけで合否を決める入試ではありません。アプリ・ゲーム・Web・動画・3D・画像生成など、自分が表しやすい方法で制作してください。ただし、作品制作を伴う入試ですので、試しながら形にしようとする姿勢は大切にします。

Q. 作品が未完成でも評価されますか？

A. 完成度だけで合否を決める入試ではありません。ただし、当日動かして見せたり、何を試したかを説明したりできる状態まで持っていくことは大切です。うまくいかなかったことも、制作日記や対話の中で受け取ります。

Q. 制作日記はどのくらい書けばよいですか？

A. 分量で評価するものではありません。考えたこと、試したこと、途中で変えたことなど、その子の制作の過程が見えることを大切にします。フォーマットは、9 月のテーマ発表時にお知らせします。

Q. 当日の対話では何を聞かれますか？

A. 志望理由を暗記して話す場ではありません。作品について、工夫したこと、何を伝えようとしたのかななどを対話します。

デジタル入試のテーマ例

作品をつくるだけでなく、誰かに届けることを考える。

デジタル入試は、AI やツールを使って何かをつくることだけが目的ではありません。大切なのは、誰のために考え、どう届けようとしたかです。正解を当てる入試ではありません。身近な場面や相手を想像しながら、自分なりに考え、試し、形にしようとする過程を受け取ります。

2027 年度の正式テーマは、2026 年 9 月に発表します。以下はテーマの例です。

■ テーマ例

ー 雨の日の放課後を、少し楽しくするデジタル作品

雨の日の放課後は、外で遊べなかったり、何となく気分が重かったりすることがあります。

そんなとき、ほんの少しでも気持ちが軽くなる。

ちょっと笑える。

誰かと話したくなる。

そんなデジタル作品を、あなたの方法でつくってください。

ー 家族や友だちの「好き」を、もっと楽しめるようにするデジタル作品

家族や友だちが好きなものを、思い浮かべてください。

その「好き」を、もう少し深く味わえる。

新しい角度から楽しめる。

誰かと一緒に共有できる。

そんなデジタル作品を、あなたの方法でつくってください。

感じたことを、自分の動きにする。

ダンスの上手さだけを見る入試ではありません。身体で表現してきた時間は、一人ひとり違います。

だからこそ本校は、音楽で自分の身体に向き合い、自分らしい動きを表そうとしてきた、その軌跡を見ていきます。ダンスパフォーマンスと対話を通して、その子の感じ方、表し方、届けようとする姿勢を受け取ります。

なぜダンスか

受験期になると、好きなことを一度止める、諦める、後回しにする。そうした選択を迫られる子が少なくありません。でも、何かに夢中になってきた時間は、その子を形づくっています。ダンスに向き合ってきた子には、身体で感じ、考え、表現してきた時間があります。そこに、その子の個性が表れます。

ダンス入試は、ダンスが得意な子だけの特別枠ではありません。音楽を受け取り、自分の身体で表し、見る人に何かを届けようとする姿勢を見ます。

ダンスに向き合ってきた時間は、身体に残ります。何度も練習したこと、音楽を聞き込んだこと。うまくいかなかったとしても続けてきたこと。その積み重ねから生まれる熱量を、私たちは大切に受け取ります。

入試の流れ

2026 年 9 月	課題曲の発表・制作日記フォーマット公開
2026 年 9 月～2027 年 1 月	振付制作・制作日記の作成
2027 年 2 月（試験当日）	ダンスパフォーマンスと対話 15～20 分

振付制作にあたって家族との相談や、AI の活用も認めます。

ただし、何を相談し、何を取り入れ、最後にどう判断したかを、自分の言葉で説明できることが重要です。

見たい 3 つの力

感じる力 —— 音楽や自分の身体から、何を受け取っているか

表す力 —— 感じたことを、その子らしい身体の動きとしてどう表しているか

届ける力 —— これまでダンスに注いできた熱量を、見る人に届けようとしているか

よくある質問

Q. ダンス経験が長くないと受験できませんか？

A. 経験年数だけで合否を判断する入試ではありません。ただし、実技を伴う入試ですので、身体表現に向き合ってきた時間や練習の跡は見ます。

Q. どんなダンスを見せればよいですか？

A. 正解の振付があるわけではありません。ダンスを通して表現したいことや自分らしさが表れることを大切にしています。ジャンルは問いません。

Q. 制作日記はどのくらい書けばよいですか？

A. 分量で評価するものではありません。考えたこと、試したこと、途中で変えたことなど、その子の制作の過程が見えることを大切にします。フォーマットは、9 月のテーマ発表時にお知らせします。

Q. 当日の対話では何を聞かれますか？

A. 志望理由を暗記して話す場ではありません。踊った表現について、工夫したこと、練習で考えたこと、何を伝えようとしたのかななどを対話します。